

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年12月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4675200192号
法人名	有限会社 福寿
事業所名	グループホーム小山田の里(さくら館)
所在地	鹿児島県始良市加治木町小山田1419-1 (電話) 0995-62-7800
自己評価作成日	平成23年12月30日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	-----------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成24年2月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に密着した施設を目指し、積極的に地域との交流に取り組んでいる。
家族会・保育園・小学校・中学校・地域住民・ボランティアの方々の協力を得、当施設主催の夏祭り等を行っており、地域・参加者の楽しみでもあり、地域行事の一環として根付いて来ている。
また、開放的な施設作りに取り組んでおり、全体的に開放感があるホームである。
自分らしさを大切にし、ゆったりと自由に生活していただける対応に心がけている。
利用者・職員が常に寄り添いの関係作りが進められている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは広い敷地内に梅、桜、藤、もみじが植えられており、四季を感じることができる。また裏山の筍やシイタケ栽培、菜園からとれる食材やミカンやキンカンなど旬の収穫を楽しめる環境にある。開設当初から地域に密着したホームをめざしており、ホーム主催の夏祭りでは、今や保育園、小学生、地域住民が参加するほどの大きな催しになっている。敷地内には、地域住民、家族、利用者も気軽に利用できるレストランがあり、閉塞感なく多くの人が集まる場所になっている。死角になっている居室の見守りには鏡を工夫して取り付け、リスク防止につなげている。ポータブルトイレを使用しない排泄支援を目標に掲げ、利用者の失敗は介護者側に問題があると捉え、話し合い、検討を図りながら利用者へ気持ちよい排泄、そして自立支援につなげている。ホームが地域に溶け込むようにと運営推進会議には多数の地域住民代表の参加をお願いし、そこでは介護予防教室を開いたりすることで、地域と一体となったサービス支援につなげている。職員は看取りの経験もあり、利用者へ「共に生きる」関係を築き、親身になって介護している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	利用者の方々が地域の中でその人らしく安心して生活できるように取り組んでいる。 理念（自分を愛し 人を愛し 自分らしく ゆったりと 楽しく暮らしましょう）	理念をホール内やパンフレット、ホーム便りなどに掲載することで、幅広く啓発している。また、地域との関わりの重要性を運営者含め全職員が認識するため、基本方針の中には地域密着の文言を明記している。申送りや職員会議などで理念の確認や意識付けを行い、共有、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全職員、近隣住民とのかかわりを大切にするよう常に指導がなされており、近所づきあいは良好にたもたれている地域住民の方々の協力を得、農作物の交換・行事などに参加したり、来ていただいたりしている。	ホームの夏祭りには、地域全体のお祭りとして地域住民や子ども達が参加しており、現在では大きなイベントとして定着している。他にも地区の運動会や文化祭に参加している。小学校の先生方の研修の場にもなっていることから、地域に見守られているホームである。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の小学校・中学生等の体験学習・その他実習等の受け入れは積極的に行っている。そして、高齢者の方々への取り組みとしては介護者の勉強会等検討している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の頻度で入居者・家族代表・地域住民・民生員・行政連絡員・施設代表が参加して行なわれている。参加者の意見を職員会議等で報告し、改善の方向で進めている。	定期的開催し、入居者状況や防災訓練報告や行事予定、夏祭りについての意見交換や地域勉強会の場にもなっている。地域住民の参加をお願いし、地域と一体となったサービス運営を図っている。議事内容はホーム便りや家族会で報告している。	

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者・地域包括支援センターとの連携を大切に、アドバイス等を頂きながら進めている。	小学校教員の研修先としてホームを提供したり、ホームの夏祭りには、行政の参加をもらうなどの協力関係ができています。生活保護受給者もいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の無いケアを全職員意識して取り組んでいる。日中は施錠せず開放されている。外出傾向のある方への対応として、目配り・気配り・声かけで対応し、又、近所への理解・協力を依頼してある。	ホーム内にも身体拘束についての文書を掲示し、職員の意識付けを図っている。身体拘束廃止委員会を設置し拘束のないケアの取り組みについて検討会議を開いている。日中は施錠しないで自由に外出できるようにしており、職員が目配り、気配り、近隣の協力で支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に人生の大先輩であることを念頭に置き、利用者一人ひとりを尊重してサービス提供に取り組んでいる。職員間で意識しあい防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今現在、対象者は居られないが、権利擁護について学ぶ機会は設けている。しかし、完全に全職員が理解している状態ではない。		

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前訪問・入居時に本人・家族に重要事項の説明を行なうと同時に、質問事項等を受けて説明を行なっている。 退所時のフォローについても話している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受付窓口にご意見箱の設置があり自由に意見が書けるようにしてある。責任者等を提示してあり説明も行なっている。運営推進会議・職員会議等で公表し再発防止に努めている。ご意見等には委員会で検討し改善の方向で進めている。	面会時や利用料の支払い時を、意見や要望、苦情を聞く機会と位置付けている。年1回無記名アンケートも実施している。要望や苦情については職員間で共有、話し合い、運営に反映、家族にも伝えている。毎月、利用者の状況報告も送付する他、ホーム便りは年4回発送している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より自由に意見や提案ができるように取り組んでいる。	毎月のケース会議は各ユニット毎に、職員会議は合同で話し合っている。入浴場の手すりや玄関のチャイムなど、出された意見から、安全対策に結び付けている。職員に広報委員会、環境美化委員会などの役割を振り分け、働く意欲向上や質の確保につなげている。資格取得支援も行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	状況変化等に対応できるように職員間で話し合い、勤務調整が行なわれている。 職員間に問題がないか等、時折、職員と話をしている。		

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>積極的な外部研修参加を呼びかけている。</p> <p>内部研修も勉強会等を行っている。</p> <p>職員会時に研修報告や勉強会を行っている。</p> <p>働きながらの資格取得の費用も出している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者・介護支援専門員を主にネットワーク作りが出来ている。</p> <p>市グループホーム協議会の研修等を通じ取得した知識等、職員会で報告し、サービス向上に努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人・家族との面接を積極的に行い、希望・要望等を受け止め信頼関係作りに努めている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>積極的に職員全員が家族への声掛けを行い。家族の方々の不安や困りごとを受け止め、希望・要望に対応できるように努力している。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>相談を受けた時点で、本人・家族にとっての最優先解決課題を見極めた対応に心がけている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者は人生の先輩であることを念頭に入れ、支援させていただくように心がけている。又、共に寄り添う気持ちで生活をするように心がけて対応している。</p>		

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族とも常に連携を取りあつて、本人にとって今、何を必要としているのかを模索し、対応するように取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまでの関係が維持できるよう、知人・友人・親戚など自由に面会できるようにしている。又、色々な行事にも自由に参加できるように対応している。	職員は利用者とともに友人や知人の入所先や入院先へ見舞いに行ったり、墓参りやふるさと訪問として自宅訪問を計画支援している。家族も行きつけの理美容院、買い物、外食など同行支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の交流の機会もあり、お互いに自由に交流できるようになっている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所時など、職員や入居者と面会に行っている。再利用も受け入れている。いつでも相談等受け入れる体制をとっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の希望・要望の把握に努めている。実現に向けて検討も行っている。	職員は利用者の表情や動作、会話の中から嫌がることや好む事などや、思いを把握している。困難な場合は家族の協力を貰ったりして本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人・家族に生活暦やライフスタイルをお聞きし、今後の希望、要望を確認をし、入居者の方々の支援を行うように取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者・家族の希望・要望を重視し、心身機能・残存機能を把握し、少しでも自立した生活が可能となるように取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者・家族の希望・要望を重視し、少しでも自立した生活が可能となるよう、無理のない介護計画作成に取り組んでいる。	アセスメントに7つのケア項目を掲げ、利用者の全体像把握に活用している。利用者ごとのケア目標について、検討会を毎月実施し、モニタリングは半年に1回の割合で行っている。リハビリの通院継続や安心してホーム生活できるよう本人の希望を取り入れ、頻回に家族同伴の外出を計画するなど利用者の現状に即した介護計画を作成している。	

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケース記録に個別に具体的に記録し、情報を共有しながら支援している。実施期間を明記し、終了時に見直しを行っている。状態変化時の見直しが遅れ気味になることもある。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況・要望に応じて、入院・通院時の送迎など柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域住民・行政・民生員・ボランティア・消防・教育機関等の協力を頂きながら支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	常時往診していただける主治医がおり、容態変化時など相談し対応していただいている。緊急時の協力医療機関も確保されている。本人・家族の希望するかかりつけ医としている。	入居前からのかかりつけ医の継続受診の他、協力医の往診もある。家族の状況によってはホームの職員が同行することもある。医療連携体制もとっており、看護師も常勤している。	

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問看護師に電話・口頭で現状報告している職員に看護師資格取得者もあり、健康管理等の助言・アドバイスをもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>医療機関のソーシャルワーカー及び家族と連携をとり、早期退院に向けて相談協力体制を作っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>終末期の有り方に付いて、本人・家族の希望等をお伺いして希望があれば週末ケアに取り組むようにしている医師の協力を得るようにしている看護師の配置も出来ている</p>	<p>指針を作成し、入居時にホームの方針を説明している。ケースが発生した折には再度話し合いを持って取り組んでいる。家族の協力の下、看取り経験もある。かかりつけ医の指示を貰い、全職員、方針を共有している。経験も得、勉強会を行いながら看取り支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員に対応方法を説明している。簡単なマニュアルがあり、職員室に掲示してある。対応方法が完全に周知徹底できていないところがある。</p>		

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>毎月防災の日を設定している 年に2回の防災訓練を行い、避難誘導の訓練も行っている。訓練時には地域住民の方々にも声掛けを行い、参加して頂いている。</p>	<p>年2回消防署立会いの下、消防訓練を行っている。また、毎月、実技を兼ねた自主訓練を実施している。近隣の方にも訓練への参加をもらったり、消防団との協力体制もできている。スプリンクラーの設置や備蓄もある。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重した声かけを行なっている。個人情報にも気配りして対応している。	職員は常に利用者を人生の先輩であると念頭に入れ、誇りを傷つけないよう言葉かけや対応に注意している。定期的に接遇などについての勉強会もなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望・希望を受け止め、本人の能力に合わせて、自己の判断で納得した生活をしていただけるように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一部は職員側の都合で進められているところもあるが、出来るだけその人らしい生活ができるように取り組んでいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	意思表示のできる方は、自分なりのおしゃれが出来るように取り組んでいる。意思表示の出来ない人に対しては職員サイドで考慮して考えながら支援している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立作成には利用者方々の意見を聞きながら作成している。職員も共に会食を行なっている。片付け等は共に行なっている。可能な限り、好みに合わせて対応するように努めている。	利用者の希望を聞いて献立を作ったり、利用者の力量に応じて菜園の収穫など手伝ってもらっている。食事も職員や利用者が会話を楽しみながら、美味しく全量摂取されている。敷地内の茶屋で茶菓子を楽しんだり、弁当持参の花見などの機会も作っている。	

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は毎食チェックを行うようにしている。 厳密なカロリー計算はされていないが、おおむねバランスの取れたものになっている。時々栄養士の方の助言を頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけ・一部介助・全介助で誘導・見守り・介助が行われている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンの把握を排泄チェック表で行い、出来るだけトイレでの排泄が可能となるように取り組んでいる。	基本はポータブルトイレを使用しない方針を掲げ、夜間もトイレ誘導を行っている。排泄チェック表や利用者の挙動を見ながら排泄パターンを把握し、見守り支援できている。自立している利用者もおり、利用者の自信や職員の励みになっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物については出来るだけ繊維質の多い食材を使用するようにしている。 水分補給に心がけ、乳製品等の摂取にも積極的に取り組んでいる。 臥床の時間を短くし、室外活動等もすすめている。		

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	基本的には曜日設定等を行なっているが、希望があれば、臨機応変に対応している。	入浴は週3回午前中に実施しているが、希望があれば毎日でも可能である。職員二人での介助を必要とする利用者も多くなっている。必要時にはシャワー浴や腰湯で対応し、気持ちよく過ごしてもらうよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の都合でいつでも臥床・休息が出来るようにしてある。 リビングにはソファ・椅子が設置されている。又、隣接して和室があり、くつろげるようになっている。 テラスにはテーブル・椅子が設置されており、ゆったり出来るようになっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者一人ひとりの服薬情報つづりを作り、それを基に服薬支援を行っている。特に薬が変わった場合は症状の変化に注意を払い、確認しあっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の残存能力に合わせて居室清掃、洗濯物たたみ、洗濯物干し、調理補助を手伝っていただくなどの活動の場を作り、共に喜び感謝する対応を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	室外での活動・散歩・ユニット間の交流等を行っている。 夏祭り・運動会見学・花見・ソーマン流しなど、家族の協力も得られ、行事参加や外出の機会が作れている。	日常的に散歩やユニット間の行き来を楽しんでいる。個別には墓参り、故郷訪問、買い物、ドライブなど支援している。小学校学習発表会や運動会、初午祭や太鼓踊り、初市などに外出機会をつくり支援している。	

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金は家族より小遣いとして事務所で預かり、外出・買い物の日などには希望者に一定金額渡し、自己管理していただくようにしている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>代筆希望等がある時は、代筆の支援を行っている。 職員室内に電話が設置しており、自由に利用できるようにしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>食堂は広々として圧迫感のない造りになっている。 和室や床の間等があり、落ち着く環境となっている。 玄関の下駄箱も家庭的なものとなっている。</p>	<p>共用空間に和室や床の間があり、落ち着いた家庭的な雰囲気がある。天井も高く空の絵が描かれ明るい。ウッドデッキも広く開放的な造りである。置物や創作品の工夫で生活感や季節感を出している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングまわりにテラス・縁側・畳部屋があり、個別に過ごせるスペースがある。 椅子やソファが設置されている。</p>		

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居前に入居案内により、これまでの生活環境の継続のため、今まで使用されていた使い慣れ親しんだ家具・生活用品・装飾品等の持込を呼びかけしている。</p>	<p>和室とフローリングがあり、ベッドのみをホームで準備し他は利用者の希望に沿った物が持ち込まれていることから、それぞれの個性がうかがえる過ごしやすい居室になっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>浴槽・トイレ・廊下には手摺りが取り付けられている。居室入り口には個別の表札が取り付けられている。 トイレはどこからでも見えるよう表示をしてあり、間違いや混乱しにくいようになっている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

鹿児島県 グループホーム小山田の里 1ユニット

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない